

鹿児島信用金庫 地方創生への取組み

- 地方創生★政策アイデアコンテスト2016ファイナルへ
- かしん経営大学卒業式
- 鹿児島県 RESAS シンポジウム
- 経済産業省 RESAS 活用事例集へ掲載
- 地方創生担当大臣より受賞―枕崎フランス鯉節



Kashin Management university

まち・ひと・しごと創生本部 内閣府地方創生推進室主催
地方創生★政策アイデアコンテスト2016
かしん経営大学
鹿児島チーム

ファイナリストへ 企業賞受賞

ファイナリストとして出場
東京大学・伊藤謝恩ホール
にてプレゼン

地方創生★政策
アイデアコンテスト

授賞式の様子 企業賞「FORUM8賞」受賞。

...s KAGOSHIMA project
島にもっとエンターテイメントを！
若い世代が創り出す地方創生
島信用金庫 かしん経営大学
鹿児島チーム



平成29年1月21日(土)東京大学・伊藤謝恩ホールにて開催された地方創生★政策アイデアコンテスト2016において、かしん経営大学・鹿児島チームが全国から応募された政策アイデア699件の中から、大学・一般以上の部門において5組に選ばれファイナリストとして出場。

最終プレゼンは、山本幸三地方創生担当大臣をはじめ、最終審査員にNHKディレクター・阿部博史氏、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授・夏野剛氏、(社)全国地方銀行協会会長・中西勝則氏、NPO法人グローバルキャンパス理事長・大社充氏、横浜市立中川西中学校校長・平川理恵氏を迎え開催され、各ファイナリストが発表を行いました。

地方創生★政策アイデアコンテストとは、「地方創生のムーブメントを国民レベルで盛り上げる」をテーマに、内閣府地方創生推進室が主催しRESAS(地域経済分析システム)を活用して自らのまちを分析し、元気にする政策アイデアを募集しているものです。自分の地域や故郷の現状、そして未来がどうなるかとしているのか、知ってもらおう事と、考える機会にと開催されています。

RESASとは、官民のデータを集約したもので一般の方も自由に閲覧することが可能(※一部不可)で、様々なデータがあり、今現在も進化を続けています。活用方法についても、学校が授業へ導入したり、企業が戦略を練る上での分析等、その活用場は大きな広がりを見せています。

《 かしん経営大学・鹿児島チーム 》



▲ かしん経営大学・鹿児島チーム ※左から
 鹿児島信用金庫 調査役 高山 未央
 株式会社創造経営研究所 取締役 宇都 泰平
 ヤマグチ株式会社 専務取締役 山口 秀典
 学校法人鹿児島学園 広報企画室長 正村幸太郎



▲ 発表直前



▲ プレゼンの様子



▲ 審査員からの質問に答える様子

かしん経営大学・鹿児島チームも、緊張感のある中政策アイデアのプレゼンを行い、地方創生担当大臣賞は逃したものの、企業賞「フォーラム8賞」を受賞しました。当金庫が取り組む人材育成の場かしん経営大学で学んだ鹿児島チームが評価された事は、大変嬉しく思います。

見事・企業賞受賞

発表は、持ち時間各ファイナリスト5分。その後最終審査員からの政策アイデアに対しての質問という形で行われ、高校生以下の部5組、大学以上一般の部5組、計10組の政策アイデアの発表が行われました。

かしん経営大学・鹿児島チームは、RESASを使用し、創業・雇用と観光という側面から分析検証を行い考えた政策プラン「BAYs KAGOSHIMA project(ベイスカゴシマプロジェクト)」を発表。



▲ コンテスト HP



▲ YouTube



▲ 地方創生★政策アイデアコンテスト2016
 ホームページからファイナリストの政策プランや当日の動画を見ることも可能です。是非ご覧ください。



BAY-s KAGOSHIMA project <ベイスカゴシマプロジェクト>

かしん経営大学・鹿児島チームの作成した政策プラン。
RESAS(リーサス)で、若年層の雇用。また観光面から分析・検証を行っている。
リーサスと他データで肉付けを行い、事業計画を現地調査や見積りを行い費用対効果を算出するなど非常に内容が充実している。

事業プラン

鹿児島を創業と雇用という観点、そして観光面から分析。
事業プランから計画まで。鹿児島の「まちづくり」を考える。

分析 1

創業と雇用という観点から分析

RESAS

- 年齢階級別純移動数分析(人口マップ)
- From-to分析転入超過(人口マップ)
- 有効求人倍率(自治体比較マップ)
- 一人当たり賃金(自治体比較マップ)
- 創業比率(自治体比較マップ)

RESAS 他データ

- 鹿児島に就職しない(したくない)理由(鹿児島市総合戦略)
- 高校卒業者の県外就職率(文部科学省)
- 年齢別の人口の流入(総務省)

- 人口の社会減、特に若年層の流出が多い。
- ソフト・ハード面共に充実させることで若者の流出抑制。
- 創業比率は高い。

分析 2

観光という観点から分析

RESAS

- From-to分析(観光マップ/滞在人口)
- 全産業花火図(中分類/従業者数)
- 地域経済循環図
- 国籍別訪問者数の推移(観光マップ/外国人訪問分析)

RESAS 他データ

- 入込・宿泊観光客数(鹿児島市観光統計)
- 県外の人々の見方の検証(鹿児島県PR戦略会議資料)

- 観光の核となるイメージとモノがない。
- 第3次産業の付加価値額が高い。
- 宿泊・観光サービスに従事する人が多い。
- 卸・小売を見ても観光関連が多い。

〈施策案〉

雇用・創業と観光の両面からみた魅力あるまちづくり

鹿児島にエンターテインメント性のあるグランピング事業を計画。
Luxury(ラグジュアリー)で、KAGOSHIMA TRADITIONAL(伝統)をプラスし
鹿児島の人々が楽しめる場所を。その影響が観光客へも伝わり活性化へ。

分析 3

立地判定としての RESAS 活用

- 流動人口マップ・月別推移(観光マップ/メッシュ分析流動人口)
- 流動人口マップ・時間別推移(観光マップ/メッシュ分析流動人口)
- 目的地分析(観光マップ)
- メッシュ分析(観光マップ/ヒートマップ)

計画

事業化の可能性

- イメージ平面図作成/イメージパース作成
- メニュー/タイムスケジュール/価格設定/イベントプラン
- ターゲットイメージ/事業セグメント
- 年間収入計画(月別~1年)
- 収支計画(創業期と以降3期分)

“自分達が楽しめるもの”をテーマに

“自分達が楽しめるもの”をテーマに地方創生の事業プランを作成。このテーマは、我々若い世代が現状鹿児島に抱いている、不足している部分ではないか。人口減少が避けられない中、生産年齢人口、特に未来の鹿児島を担う10代・20代へ魅力ある“まちづくり”をする必要がある。

このプロジェクトは、鹿児島の敷地利用案で、鹿児島の伝統をプラスした鹿児島初のグランピングを計画。鹿児島にエンターテインメントを創り出すことで、若年層の人口流出を抑えることと鹿児島の人、若い世代の活性化に繋げる。そして、その活性化の波が観光客の集客へと繋がっていく。
鹿児島もできる!鹿児島でもできる!!若い世代にそんな力強いメッセージを送れる事業プランを提案。

SPECIAL TALK

ファイナリストに聞いてみた。

Q1 ファイナル、かしん経営大学、RESASについて。

Q2 自分の業界とRESAS・地方創生について。



「かしん経営大学で
学んだ大きなこと。」

鹿児島信用金庫 調査役
高山 未央 Mio Takayama

A1 今回初めてかしん経営大学に職員として参加しました。普段あらゆる業種のお客様とお付き合いさせて頂いておりますが、若い経営者の方々と一緒になって事業・政策プランを作成するという事はとても良い経験になりました。「みる」立場から「つくる」立場になるとまた違った視線で物事を見ることができ、今後も自分の中で活かせるようにしていきたいと考えています。

A2 金融機関と人口減少ー

若い世代の減少、人口減少という問題を、RESASで自分の目でデータとして改めて見ると実感が湧きます。私も地元金融機関に勤める立場として、地方創生には何かしら携わる部分が多いです。建設業や他の業種全般に言える事ですが、若い世代がいないという話は少なからずお聞きします。事業承継や若い従業員の確保、このまま人口減少が進めば問題がもっと顕著に出てくるのではないかと思います。地元の金融機関として金融だけでなく、“まちづくり”全体を考えた取り組みを考えていかなければならないというところも一つのテーマだと考えています。



「RESAS は共通言語に
なりうる可能性がある。」

株式会社創造経営研究所 取締役
宇都 泰平 Taihei Uto

A1 かしん経営大学を普段は企画・運営のお手伝いする立場なので、他のメンバーもそうだと思いますがプレッシャーはかなりありました。ファイナルは非常にいい経験になりました。驚いたのは、高校生以下のファイナリストの皆様のプランのアイデアです。若い世代の方々が自分の“まち”について発表される姿には逆に元気をもらいました。またRESASというビッグデータは、業界の垣根を超えて一つのテーマに基づきプランを進める場合、導入部分として最適なツールだと思います。そのデータと他データ、自分の持っているリアルな情報と合わせて活用して欲しいと思います。

A2 かしん経営大学で生まれるものー

当社は、かしん経営大学を企画・運営させて頂いております。今回、参加側にもまわり改めて感じたのは、業界毎のモデルや考え方の違いです。異業種で一つのテーマを創り上げる事だけでなく他の業界の構造や顧客対象、営業方法等を知ること、自分の会社や職場に活かす事は十分可能であるし、何より自分の会社以外の“ひと”と繋がりを持つ事は大きな財産になります。かしん経営大学のグループワークで学んだ事は、自社に持ち帰って頂く是非社内でも今後の事業展開、サービス開発、商品開発等にそのノウハウを取り入れて欲しいと思います。



「地域を知り、地域の将来に
ついて考え“まちづくり”を。」

ヤマグチ株式会社 専務取締役
山口 秀典 Hidenori Yamaguchi

A1 異業種の方々が集まるセミナーは多々あれど、そのメンバーがチームを組み、1年を通して共に学んで行くというのは、とても貴重な勉強の場でした。そして、一緒になったメンバーと共に一つのプランを作り、それがコンテストのファイナルまで残るといのはとても忘れがたい経験となりました。各分野の視点から見た考えや、他のファイナリストチームのプランを聞くなど見聞きし、改めて、一つの考えにとらわれず多角的思考をし、更に思考した考えとデータを組み合わせることで根拠を持ったものにしていく大切さを感じました。

A2 建設業も根拠と必要性を理解し 仕事をしていくー

人口減少、過疎化が構造的に進展し、疲弊する地域経済を活性化させていくためには、行政側も、企業側も、地域の現状・実態を正確に把握した上で、将来の姿を客観的に予測し、その上で、地域の実情・特性に応じた、自発的かつ効率的な政策や計画、ビジネスプランの実行が不可欠だと思います。その中で、インフラを支える建設業も、公共工事として受注した仕事で、どういった根拠や必要性から行政側が発注したのか、工事を行っている場所がどのような現状なのかを知り、理解し仕事をしていくことが社会基盤を支える私達にも求められていると思います。だからこそ、リーサスは、地域について知り、地域の将来について考えるきっかけとして最適だと思います。



「地方創生に繋げる。学校が
考えるフォローアップ事業。」

学校法人鹿児島学園 広報企画室長
正村 幸太郎 Kotaro Shomura

A1 かしん経営大学18期目に初めて参加し、異業種でチームを組み、事業プランを考える“おもしろさ”を学びました。今回20期目でツールとしてRESASをもとにプランを考えることで、プランがより現実的になり、チームでの共通理解もスムーズにプラン作成を進めることができました。またその結果が、ファイナル出場という機会を得たことを大変嬉しく思います。

A2 卒業後にUターンしやすい環境を 学校が創るー

私達のRESASデータと文科省のデータから“高校生の県外就職率が高い”という分析を行いました。私の学校でも、就職と進学で県外へ出て行くイメージがあります。エステティシャンになる生徒達は、“県外の企業の方が高待遇である”こと。看護系の生徒達は、“就職してからの研修体制等が県外の方が充実している”などの理由で県外に出ます。当校は、一度県外で学び鹿児島県にUターンしてくる卒業生を増やせるような施策を考え、そのフォローアップ事業を今後一つのテーマとして取り組み始めています。



第20期 かしん経営大学 卒業式



かしん経営大学卒業式

各グループ
成果を発表。

最後のプレゼン発表と卒業式

第20期かしん経営大学の卒業式が当金庫本店にて開催されました。
本年度は、計7グループが作成した事業プランを発表。
当金庫理事長をはじめ全役員から支店長まで参加し、各グループが作成した
事業プランに耳を傾けました。

かしん経営大学も20年という節目に、地方創生★政策アイデアコンテスト2016
でファイナル進出や経済産業省のRESAS利活用事例集で全国の事例として
掲載されるなど記念すべき一年となりました。



▲ 卒業式の様子



▲ 学長 後藤理事長より挨拶



▲ 卒業証書授与



▲ 生徒代表挨拶



▲ 主任講師 宇都先生の総括



▲ 卒業式の様子
一人一人卒業証書が授与されます。

卒業プラン

第20期かしん経営大学の卒業式で発表された事業プランをご紹介します。
それぞれのグループが、RESASを使用するなど、様々な分析を行い“まちづくり”について考えたプランになっています。かしん経営大学の特徴である異業種によるグループワークで生まれた、それぞれに素晴らしいアイデアや計画発表となりました。

鹿児島チーム

BAY-s KAGOSHIMA project

“自分達が楽しめるもの”をテーマに地方創生の事業プランを作成。このテーマは、我々若い世代が現状鹿児島に抱えている・不足している部分ではないか。人口減少が避けられない中、生産年齢人口、特に未来の鹿児島を担う10代・20代へ魅力ある“まちづくり”をする必要がある。このプロジェクトは、鹿児島のドルフィンポート前にあるウォーターフロントパークの敷地利用案で、鹿児島の伝統をプラスした鹿児島初のグランピングを計画。鹿児島にエンターテインメントを創り出すことで、若年層の人口流出を抑えることと鹿児島の人・若い世代の活性化に繋げる。そして、その活性化の波が観光客の集客へと繋がっていく。鹿児島もできる！鹿児島でもできる！！若い世代にそんな力強いメッセージを送れる事業プランを提案。



始良チーム

鹿児島どまんなか市場

鹿児島に来られた観光客・始良市を通る県内外の方・始良市民の方に鹿児島の(食べたい・買いたい・送りたい)を提供できる立寄所・休憩所となる場所です。観光アクセスに非常に好立地の始良に鹿児島の特産品を集約する事により、自治体には地域活性化・地域交流・雇用創出・観光客取り込み・始良市の観光、特産の拠点。観光客には品質を確かめた上でお土産の購入アクセスの利点を活かして、立寄所・休憩所、お土産の最終選択地にする。お土産のおまとめ発送で観光客を取り込む…等・地域住民には職場の選択、確保定期的なイベントなどによる地域交流…等・出店企業には低コスト・低リスクで直売店舗に出店、確実な集客、売上げの-marginもなく、莫大な広告費がいらぬ…等・どまんなか市場へは家賃収入型で安定した事業形態を継続出来る。人・企業・自治体を繋ぎ、地域創生の拠点となる事業…等 5win 皆が笑顔になるどまんなか市場を企画しました。



霧島チーム

きりしま黒ラーメンプロジェクト

鹿児島県霧島市と言えば何を想像できますか？一般的に温泉、霧島連山が一番に想像できると思います。公共機関を利用して、鹿児島県へ訪れると思いますが、私達が住む霧島市は温泉や霧島連山こそありますが、観光客が宿泊し食を楽しむ場所が少なく、鹿児島を楽しむ上での通過地点でしかありません。私達が現状調査を行う中で霧島市は、観光名所を訪れる観光客は年間700万人以上いる中で、宿泊者が非常に少ないことが分かりました。現状の問題として、宿泊施設の経営悪化や飲食業の衰退もあり町全体に元気がないことがあげられます。私達の町霧島市には、黒豚、黒毛和牛、黒ニンニク、黒酢といった特産物が多くありますが、食を楽しむ場所(施設)が少ない為、「食」をテーマとしたラーメン『黒ラーメン』で食の名産を生み出し、地元企業や行政を含め「きりしまの食のFOOD(風土)」をつくり、霧島市の食の文化と地域活性化へ発展できたらと思います。



南薩チームA

ファスティング事業 ～未来型湯治場のカタチ～

南薩は、古くから湯治場として栄える温泉街「指宿」、風光明媚な海道を有する「南さつま市」など、自然の宝に恵まれた地域である。本地域では、指宿を代表する砂蒸し温泉、サイクルシティ南さつま、健康食材「長命草」の普及など、市民総ぐるみでの健康なまちづくりが進められ「健康都市」の土台が醸成されつつある。私たちは、この唯一無二の「温泉」、南薩に代々受け継がれてきた「おもてなしの心」、南薩にしかない「食の恵み」、この3つが融合したカタチとして、究極の健康体験「ファスティングによる未来型湯治場」を提案。南薩を舞台とした健康プロジェクトにより、魅力ある地域づくりはもちろんのこと、さらなる観光客の取り込み、最終的には「ファスティングリゾート」としての地位を確立することを狙いとしたプロジェクトである。近年の観光客、特に訪日外国人の観光の体験型へのシフト、健康ブームも本プロジェクトの追い風となることは間違いない。一方、深刻な過疎化・少子高齢化による地域の衰退は避けられず、地域活性化へ官民連携した地域独自の取り組みが求められている。



南薩チームB

南薩若者による コミュニティービジネス支援事業

今回、かしん経営大学をきっかけに集まった私達は、自分達の住む街、南九州市、枕崎市を「もっと元気にしたい」「もっと魅力ある街にしたい」という同じ気持ちがありました。地元の若者が地域に根付くにはどうしたらよいか？地元の若者達で地元企業を活性化させることはできないか？ここで私達が注目したのが、南九州市、枕崎市にある地元高校です。調査の結果、地元高校生の地元企業への就職率は非常に少なく、ほとんどが市外の企業に出てしまっており、さらに、地元企業に勤めた人でも、その約半数は3年以内に離職していることがわかりました。これらの問題の解決が、地域問題の解決の糸口になり、地方創生につながるのでは？そこで私達が発案するのが、「南薩若者によるコミュニティービジネス支援事業」です。当事業は地元企業、地元高校、地元地域で連携を図り、地域ぐるみで人材育成し、その人材が企業を発展させることを目的とした支援事業です。



西薩チームA

シルバー自営隊

西薩地区(薩摩川内市・いちき串木野市)も少子高齢化、人口減少の例外ではありません。ただデータ上の生産年齢人口以外にも働ける方は豊富にあり、また西薩地区には様々な歴史や文化があります。そこで我々は主に仕事をリタイアされ、人生経験豊かな方々に、また伝統文化に長けた高齢者を雇用し、地元に残る郷土文化や食を伝える「シルバー自営隊」を結成し、県内各地に郷土文化を伝承できる場所を設けて行きたいと考えました。その場所では隊員が、様々な知識と技術を伝えるワークショップを開催致します。同時に、地元の伝統工芸、食、農作物なども、指導して土地を有効活用します。その事により、県内外から観光客を呼び込めるだけでなく、次世代の若者が地元の良さを再確認して、地元に残り、職につく。また余力のある高齢者の活躍の場・雇用創出ができると思います。



西薩チームB

日置市農業女子プロジェクト

製造業が産業売上高の多くを占める日置市の農業を再生・創造するためのコミュニティービジネスを開発、起業する。女性の強みであるきめ細かい観察力(栽培において病気や害虫等のリスク管理)と、ロマンを求める男性とは違い、消費者視線を外さない現実的志向を活かした、農業女子にスポットをあて起業家を養成する女性の・女性による・女性のための事業。人口減少が進む中、日置市に眠る耕作放棄地を利用した1次産業の承継と活性化、人口増加を図っていく事が狙い。募集方法として、県内外より元気ある女性を今流行りのFacebookやTwitter等のSNSを利用した採用活動によって誘致し、人口減少による空き家の解消にもつなげる。既婚世帯において、女性の購入決定割合が高いことから、ゆくゆくは、女性の視点、感性で付加価値の高い提案、企画力を活かし、生産から加工製品の企画・販売までを一貫して行う6次産業化の確立を目指す。



始良チームの『今』

かしん経営大学・始良チームは、卒業後プランの実現に向けて一歩踏み出した。

始良チームの挑戦
スタートラインへ

更に進化したプランに

生かされている
かしん経営大学で学んだ事

次のステージへ向かって

かしん経営大学・始良チームは、始良市商工会青年部で発表する機会を得た。始良市商工会青年部では自社の活動や報告を兼ねて発表する場が設けられている。そこで、かしん経営大学で活動しているメンバーが所属している事もあり、青年部でも発表してはどうかという事だったようだ。その後、今年1月に本体である商工会の理事会でプレゼンする機会を得る。リソースに基づいたデータ分析や若い世代が作成したプランは、周りも実現に向けて応援したいという意見も多かったそうだ。

始良チームは、こうして商工会のバックアップを得て、今年実行委員会を立ち上げ計画を進めて行きたいと考えている。また、始良市全体の活性化にも繋げたいという事から、各団体にも協力を仰ぎたいと考えている。



▲ お話を伺った左から始良市役所の花田浩太郎氏。始良市市議会議員の鈴木俊二氏。(株)山藤建設の岩下博洋氏。

「鹿児島とまんなか市場」は、県の中央に始良市が位置する事からネーミング。リソースや他データまた地元のリアルな現状を踏まえてできたプランである。

リソースによると、始良市は最近では人口増加している数少ない市であること。しかし鹿児島県の観光目的の地分析では、始良市の観光地・施設はどこも上がらない。

更にブラッシュアップする上で、立地や当該施設がどうあるべきかを考える中で特にICTには力を入れていきたい考え。より地元の方が利用しやすくする為、またテナント側へのメリットとして、双方の事を考えた差別化を強く出して力を入れていきたい考えだ。



始良チームは、かしん経営大学で共に学び事業プランを作成した。異業種で二つのテーマに取り組み、学ぶという事は各メンバーの今にもそれぞれに活かされている。



始良市に直接関わる花田氏は、「発想の元、方法が違うというのをまず初めに感じました。私は、これはできないかもという考えが先に来てしまい、冒険ができない。今回参加してみても、業界の違うメンバーの意見やアイデアを聞くと視野が広がりました。逆に自分の職場に戻ると、これではないのだろうか」と物事をもっと良くできないか考えるようになりまし。と今の仕事にも活かされていると話す。

「地方創生事業として、予算が出る。その予算が切れたら終わってしまうのが多い印象です。その点、始良には、人ありきで自主的に続いている事例もあります。人を育てるという事は、大切なんだと改めて思いました。そういう意味でもかしん経営大学は素晴らしいと思います。」と鈴木氏は、まちづくりを改めて人を育てる大切さを感じている。

「始良市というところは、最近の調査でも分かった事なんです。が、地元の企業は大型商業施設ができてあまり影響を受けていないという結果が出ていました。他にも始良市に住んでいる方の多くは平日は市外へ働きに、休日は外に遊びに行くという事もデータが示していますし、実感感じるところです。そういった事からもこのプランは始良市自体への活性化になるのではと思っています。」メンバーの鈴木氏は、更に分析を行いまちづくりを考えている。

「本当にまだ始まったばかりですが、熱がこもったプランは伝わると思っています。メンバーだけでなく、本当にいいものができるように協力を得ながら形にしていきたい。今からしっかりと準備してまずは前に進むために頑張りたいです。」メンバーの岩下氏は話す。

始良チームは、着実に一歩を踏み出し、前に進んでいるように感じた。それ以上に、目標にチャレンジしそこで得ることは、メンバーにとっても個々に活かせるものになることは間違いない。





Kashin Management university

鹿児島県RESASシンポジウムへ



「地方創生とRESAS」パネルディスカッション

かしん経営大学・鹿児島チームのメンバーは、パネルディスカッションにも参加。地方創生とRESASについて、それぞれの立場からの考えやアイデアを話しながら今後の鹿児島について考える機会になりました。

【プログラム】 12:00…開場

- 13:00…主催者挨拶(鹿児島県)
- 13:05…講話(内閣官房 堀 淳一郎)
- 13:30…基調講演
(データ&ストーリー LLC代表 柏木 吉基)
「地方創生に活かす実践的データ分析」
- 14:00…RESAS体験紹介

14:20…休憩(10分)

- 14:30…鹿児島県内 事例紹介
- 14:50…パネルディスカッション
「テーマ/地方創生とRESAS」
- 15:30…クイズ大会
- 15:55…閉会挨拶

■ かしん経営大学・鹿児島チームによるプレゼン

平成29年2月11日(土)に鹿児島県主催による「鹿児島県RESASシンポジウム」が開催されました。国のビッグデータRESASの認知向上とRESASを通して、私たちの街の“今”と“未来”を考えてもらう機会に開催されたものです。

内閣官房よりまち・ひと・しごと創生本部事務局の参事官補佐・堀淳一郎氏、また様々なデータ分析により大手企業等の課題解決を行なっている、データ&ストーリーLLC代表・柏木吉基氏が講演。堀氏からは、RESASの現況や活かし方についてや、今後の運用や更新情報について。柏木氏からは、実践的なデータ分析の方法について貴重なお話が聞ける機会になりました。

鹿児島県内の事例紹介に、当金庫のかしん経営大学より鹿児島チームが参加。地方創生★政策アイデアコンテスト2016のファイナルにて発表した「BAY-s KAGOSHIMA project」のプレゼンテーションを行いました。

パネルディスカッションでは、当金庫からも国分支店・高山調査役が登壇。地域に密着してるからこそ分かる現場の情報と人口減少について思っていることと“まちづくり”全体を考えて仕事をして行く大切さを話しました。



プレゼンテーションの様子



Kashin Management university

経済産業省 RESAS利活用事例集へ掲載



■ 当金庫・かしん経営大学が 経済産業省の RESAS 利活用事例集へ

経済産業省が昨年より発刊している、RESASの利活用について全国から先進的・優良の事例を掲載している利活用事例集が本年度も発刊されました。

データに基づく新たなモデルケースとして、政策・施策の検討・立案に至るまでの背景やプロセスを多くの自治体や国民の皆様にも広く知っていただくきっかけになることを目的としています。

当金庫の「かしん経営大学」も、RESASを活用した『地域参画型』のモデルケースとして本年度の利活用事例集に掲載されました。第20期かしん経営大学では、産学官金からの参加者があり、多くの事業・政策プランが生まれました。当金庫の人材育成の場として、歴史あるかしん経営大学が全国の事例として掲載されるのは、大変嬉しく、今後も地域の発展に寄与する金融機関として貢献していきたいと考えています。

■ 地域経済分析システム (RESAS) 利活用事例集 2017



地域経済分析システム (RESAS) 利活用事例集は、経済産業省ホームページからも閲覧可能です。全国の様々な利活用事例が掲載されています。是非ご覧ください。

地域経済分析システム 利活用事例集 2017



※地域経済分析システム (RESAS) 利活用事例集より一部抜粋。詳細は経済産業省ホームページよりご覧ください。



だしの文化をフランスへ。枕崎フランス鯉節

地方創生の特徴的な取組事例として、 地方創生担当大臣より表彰

地方創生担当大臣から表彰

当金庫と鹿児島銀行が支援する『枕崎フランス鯉節』への取組みが、内閣官房まちひとしごと創生本部に評価され、地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』として九州財務局にて地方創生担当大臣から表彰を受けました。

全国の金融機関が地方創生に携わる中で、当金庫としても地域に密着し支援していく事は非常に重要であると考え、様々な取組みを行なっております。そうした中で、鹿児島銀行様と協調し地方創生へ向けた展開ができた事は非常に大きな意味を持っていると考えています。

事業性を高く評価

当プロジェクトは、鹿児島銀行の行員が枕崎市職員、枕崎水産加工業協同組合の組合員と現地視察を行い、共同で事業スキーム及び事業計画を策定。当金庫は、鹿児島銀行、日本政策金融公庫と共に事業実現へ向けてお手伝いさせていただきました。

「だしの文化をフランスへ」という事業のきっかけから、フランス進出までの様々な経緯とその事業性を高く評価させて頂きました。

「海外での事業という大変な中で、当初から鹿児島銀行さんと鹿児島信用金庫さんが協調し、支援してくださった事は大きな支えになりました。」と当事者の方からお言葉を頂き、地域に密着し共に発展していく事を経営理念とする当金庫にとっても大きな励みになりました。

地域に密着する

金融機関として

当金庫の地方創生への取組みは、中小規模事業の事業性や発展性を見極めて



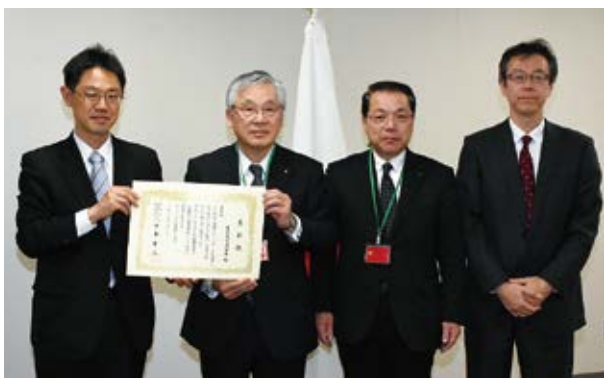
地方創生担当大臣より受賞

全国1,283事業の中から地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」34選に選出。

積極的に支援していく。そうした事が地方の持続的成長へと繋がり、それが地方創生へも繋がると思っています。
今後も鹿児島信用金庫らしい特性を生かした地方創生。地域に密着しているからこそできる活動をこれからも目指していきたいと考えています。



MAKURAZAKI
枕崎市



▲ 当金庫 後藤理事長 西理事(地方創生担当)。九州財務局にて。

地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」～より 枕崎フランス鰹節への取組み

「だしの文化をフランスへ」

(鹿児島銀行、鹿児島信用金庫)

1. 取組を始めるに至った経緯、動機等

- 枕崎市の主幹産業である鰹節製造は、国内需要の減少及びパック販売が主体となった事で最盛期150以上あった製造業者は50以下まで減少。
- 一方製造業者では、30代、40代の後継者育成が進み、昨今の世界的な和食への注目や平成25年5月にフランスで開催された「食の博覧会」で鰹節が好評であった事から将来への業界発展を見据え、EU圏への輸出を計画。
- しかしながら、EU圏に鰹節を輸出する為には、高い食品衛生基準をクリアしなければならず、現状の製造技術での輸出は困難であった。そこで発想を転換しフランスでの現地生産を模索。本件取組を始めるに至る。

2. 具体的な取組内容

- フランスでの現地生産に向け平成26年4月、枕崎水産加工業協同組合をはじめ鰹節業者等10社で合計5,000万円の出資により「(株)枕崎フランス鰹節」を設立。
- 工場建設地については、枕崎市と類似した水産業が盛んな都市で、仕入から販売までの商流に適した環境を持つフランスブルターニュ地方のコンカルノーに決定。枕崎市、鹿児島県商工労働水産部、経済産業省九州経済産業局等の協力もあり、当初困難であったコンカルノーの工場用地取得が可能となった。
- 平成26年7月に枕崎市職員および加工組合員ならびに鹿銀行員2名が現地視察を実施し、共同で事業スキーム及び事業計画を策定。本取組の事業性を評価し、鹿銀及び当庫に(株)日本政策金融公庫を加え、無担保での協調融資を応需。

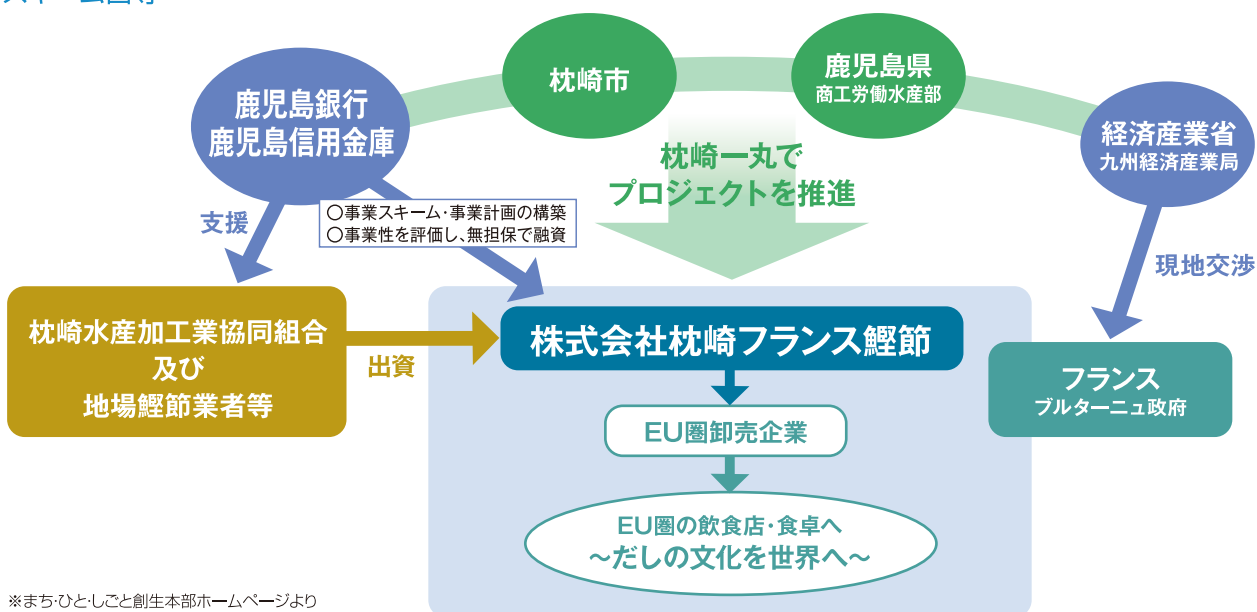
3. 実施にあたり工夫した点(関与のポイント・推進体制面・PDCAサイクル面等)

- 平成27年5月、フランス現地へ鹿銀行員2名派遣し、和・洋食店数十店舗へ鰹節のニーズについてヒアリングを実施。また販路先であるJFC関係者と面談を行い販路先拡大支援を行った。
- 現地工場の組織体制構築にあたり当初フランスと日本で考え方に大きな差があったが、鹿銀主導のテレビ電話による協議を重ね、相互理解のもと強固な体制構築ができた。
- 採算性の検証や短期・中期計画策定に深く関与し、スピード感を持って対応した結果、早期事業開始が可能となった。

4. 取組の成果(取組中の場合は目標値・KPI等)

- 平成28年8月、現地工場竣工。10月中に初出荷を予定。
- 本取組については多くのマスコミに取上げられ、国内における「枕崎鰹節」のブランド向上及び地場経済関係者の意識高揚にも繋がった。
- 今後の地方創生の取組や取引先の支援方法等に幅広く対応できる事業ノウハウを蓄積する事ができた。

5. スキーム図等



※まちひとしごと創生本部ホームページより
※一部再構成してあります

株式会社枕崎フランス鰹節

あれから二年。今春より本格的に事業展開



ブルターニュ地方
CONCARNEAU
コンカルノー市

フランスで動き出した夢

本物の「だし」文化を世界に広めたい。

枕崎フランス鰹節の夢はそこから始まった。フランス西部・ブルターニュ地方にあるコンカルノー市に進出を決め準備を進めていた鰹節製造工場が昨年竣工を迎えた。式典には、コンカルノー市長、ブルターニュ地域圏議会副議長の他関係者約200名が参加し、その期待の大きさも伺える。従業員は現地フランスで6名を雇用。また日本から技術者2名を派遣し8人体制でスタート。生産量は一日約200kgを予定。いよいよフランスで動き出す枕崎フランス鰹節の今後の動きに注目が集まっている。

納得できる鰹節が

できるまで

当初の試作品を作り始めた頃は、なかなか納得いく鰹節ができなかったそうだ。鰹節には、色味香りなど様々な必要な要素があるが、特にまず色が納得できるものができなかったという。フランスという環境の中で、設備や製造において多少の違いがあるが、枕崎で製造している鰹節に近づけるために、燻す工程において工夫を重ねた。時間温度に注意を払い、研究を重ねた結果、昨年11月に納得できる鰹節が出来上がった。今後は、品質を確保し事業運営の安定化を図っていききたいと考えている。



文化と環境の違い

フランスへ進出した枕崎フランス鰹節だが、日本とは違う文化や環境に戸惑う事もあるようだ。

一つ。納得した鰹節ができた方がいいが、鰹節を流通させる資材が品質を確保できない為、現状、日本から輸送し対応している状態で、今後商品の品質、販路拡大やコスト面等から見ても課題の一つとなっているようだ。

次に、給与形態や福利厚生である。日本とは大きく異なる点に苦労したそうだ。例えば、就労時間では、フランスでは5月から10月までの間に25日の休暇（土日は除く）を連続してとる制度がある事や、家庭や自分の時間を大切にする風土があり、日本のように勤務体制が組めず、従業員への説明やシフトをうまく調整するなどして対応した。

まだまだフランスの法制度への対応等慣れない部分はあるが、枕崎フランス鰹節は、日本では考えられなかった問題を一つずつ解決し、フランスの従業員と共に一から創り上げ、成長を続けている。





事業としてのフランス鰹節

納得のいく鰹節ができてから、営業展開もいよいよスタートし始めている。現在、大手問屋4社との取引を中心に進め今後更に拡大を図りたい考えだ。

取引先も他のアジア産の鰹節を扱っているが、日本の鰹節をまず知ってもらう為に、取引先の営業マンに食べ比べてもらい、出汁(だし)も飲んでもらうなど販路拡大も兼ねて勉強会を行なっている。2月も、営業でドイツのデュッセルドルフ、ミュンヘン、フランスはパリ、マルセイユ、イタリアはミラノと飛び回る。その努力もあり、少しずつではあるが仕入れてくれる企業や飲食店等取引先も増えているようだ。

現在も取引先各社と商品開発を進めており、今後も取引先のニーズそれぞれに合わせた商品を提供し、販路拡大を目指している。

当初の想い、本物のだしを広めたい、という事から、サプライヤーを絞らず、幅広く対応し、鰹節をヨーロッパに広めていく。工場も稼働し、今春からいよいよ本格格的な事業展開が始まる。

未来へ挑戦し続ける

進出したフランスの地元でも個人の方や地元のレストランからも問い合わせが増えてきている。プルトーニユ地域圏は4県から成り立っている。販路は先々20グラムの家庭用も商品化し、スーパー等小売店での販売も目指している。プルトーニユ地方の消費者にも、鰹節を少しずつではあるが直販で供給できるようにし、地元根付いていくの必要もあると考えている。自社だけでなく、街と共に共存共栄していく事も必要であり重要な事と捉えている。

枕崎フランス鰹節の大石社長は、「たくさんの人達の協力で、やっとここまで来ました。まずは計画通りに事業を進めていく事が重要だと考えています。そして、鰹節もフランス独自の商品開発も促進しながら、現地工場を拠点にして枕崎から輸出入もできるように努力していきます。そういった動きも進めて業界全体が活性化できる道筋を作っていきたいと考えています。やる事がまだまだいっぱいあります。」と未来へ向けて意欲的に話

す。

枕崎鰹節の未来とフランスに進出した企業としての立ち位置がどうあるべきかを考え、枕崎フランス鰹節の挑戦はこれからも続いていく。

